

## 令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

#### 4 本校の実施状況

|      |    |     |    |     |    |     |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第4学年 | 国語 | 43人 | 算数 | 43人 | 理科 | 44人 |
| 第5学年 | 国語 | 40人 | 算数 | 40人 | 理科 | 40人 |

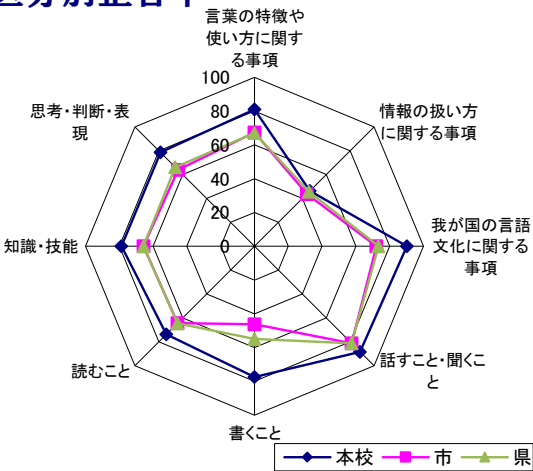
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分               | 本年度  |      |      |
|-----|------------------|------|------|------|
|     |                  | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 81.0 | 67.4 | 67.1 |
|     | 情報の扱い方にに関する事項    | 46.3 | 43.8 | 45.7 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項   | 90.2 | 72.1 | 73.4 |
|     | 話すこと・聞くこと        | 88.4 | 81.2 | 81.2 |
|     | 書くこと             | 77.4 | 46.2 | 54.9 |
| 観点  | 読むこと             | 73.8 | 64.3 | 64.5 |
|     | 知識・技能            | 78.7 | 65.7 | 65.7 |
|     | 思考・判断・表現         | 78.7 | 64.0 | 66.3 |



★指導の工夫と改善

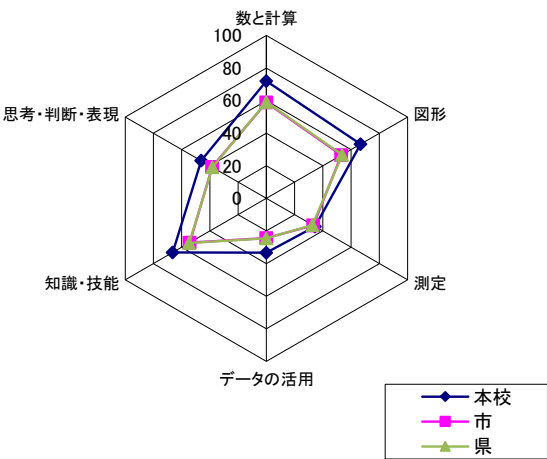
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分            | 本年度の状況                                                                                                                                               | 今後の指導の重点                                                                                                                                                        |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | ・領域全体の平均正答率は、市平均よりも13.6ポイント高い。<br>○漢字を読んだり、書いたりする問題は、正答率が市平均を10ポイント以上上回っており、第3学年に配当されている漢字の読み書きがよくできている。                                             | ・漢字に関しては、既習の漢字の復習を行う中で、単体で練習をするのではなく、熟語として様々な読み書きに触れていく。また、文章を書く活動で、文章の構成を意識して既習の漢字や熟語を使っているか丁寧に添削を行い、継続して定着を図る。                                                |
| 情報の扱い方にに関する事項    | ・領域全体の平均正答率は、市平均よりも2.5ポイント高い。<br>●例文で用いられた言葉の意味として適するものを選ぶ問題は、正答率が46.3%であり、国語辞典の使い方を理解し、挙げられた語彙の中から選択することが難しい児童が多かった。                                | ・初めて出会う言葉や分からない言葉を調べるときに、継続的に国語辞典を活用していく。また、短文を作る学習をする機会を増やして適切な意味を選択できるようにしていく。                                                                                |
| 我が国の言語文化に関する事項   | ・領域全体の平均正答率は、市平均より18.1ポイント高い。<br>○正答率が9割を越えており、へんかつくりの意味を理解し、意識している児童が多いことが伺える。                                                                      | ・新しい漢字を学習する際には、身近に置いた国語辞典や漢字辞典を活用して、自分で言葉をひいたり、同じへんの漢字を既習事項から集めたりする活動を充実させ、漢字の構成等に対する関心を高める。<br>・既習学年前であっても、児童が関心をもった時期に、へんやつくりなどに触れられるように、ドリルや1人1台端末の使い方を工夫する。 |
| 話すこと・聞くこと        | ・領域全体の平均正答率は、市平均よりも7.2ポイント高い。<br>○内容を聞き取って答える問題では、どの設問においても、市の平均よりも正答率が高く、よく聞き取れている。                                                                 | ・教育活動全般において、友達と自分の意見を比べながら聞くとともに、相手に伝わるように自分の考えに根拠を付けて表現する機会を多く取り入れる。<br>・話合いの中の自分の役割によって、聞き方や話し方が変化することが分かるように、様々な立場での話合いを取り入れていく。                             |
| 書くこと             | ・領域全体の平均正答率は、市平均より31.2ポイント高い。<br>○条件の1つとなっている6行から8行の間で文章を書くことができているのは、80.5%と市の平均正答率よりも29.4ポイント高いが、問題に答えきれていない児童も多く、個人差が見られた。                         | ・内容を整理したり段落構成が決められていたり複数の条件を意識して文章を書くことに慣れていない様子が見られるので、国語の授業等で、要約したり、条件を付けて作文を書いたりする練習をしていく。                                                                   |
| 読むこと             | ・領域全体の平均正答率は、市平均よりも9.5ポイント高い。<br>○説明文では、叙述を基に指示語や文章の内容を正確に捉えることができおり、市の平均正答率よりも10ポイント以上高い設問が複数見られる。特に文章の要約を読み、空欄に適する語を書きぬく問題の正答率は80.5%であり非常によくできている。 | ・児童に単元全体のめあてを明確に提示し、身に付けさせたい言葉の力を意識させるような授業を行うことで、全体を見通して内容を正確に捉えることができる力をさらに高めていく。                                                                             |

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算     | 72.0 | 58.9 | 59.2 |
|     | 図形       | 66.7 | 53.0 | 53.7 |
|     | 測定       | 34.5 | 33.1 | 32.6 |
|     | データの活用   | 33.3 | 24.4 | 24.6 |
| 観点  | 知識・技能    | 66.4 | 54.3 | 54.7 |
|     | 思考・判断・表現 | 46.3 | 38.5 | 38.3 |



★指導の工夫と改善

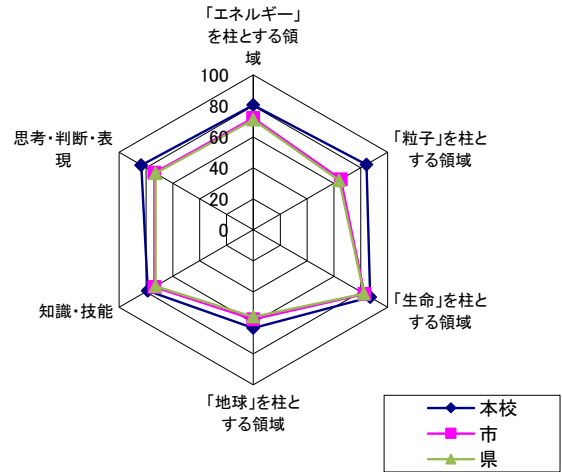
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                            |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | <ul style="list-style-type: none"><li>・領域全体の正答率は、72.0%であり、市の平均正答率より13.1ポイント高い。</li><li>○数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える問題の正答率は、75.6%であり、市の平均正答率よりも19.8ポイント高い。</li><li>○整数－小数第一位の計算をする問題の正答率は75.6%であり、市の平均正答率よりも19.6ポイント高い。</li><li>●数量の関係について口を使って正しく表された式を選ぶ問題の正答率は、65.9%であり、市の平均正答率より2.2ポイント低い。</li></ul>                                | <ul style="list-style-type: none"><li>・文章題では図や数直線などを使用して文章理解に関わる指導を継続していく。</li><li>・文章題で表されているものを順序だてて作図することを通して、テープ図や口を使った式での表し方を理解させたい。</li><li>・スパイラル的に知識や考え方を復習する機会を設ける。</li></ul>                                              |
| 図形     | <ul style="list-style-type: none"><li>・領域全体の正答率は、66.7%であり、市の平均正答率よりも13.7ポイント高い。</li><li>○円の性質を利用して作図する問題の正答率は、63.4%であり市の平均正答率よりも24.5ポイント高い。</li><li>○球の半径を利用して箱の縦の長さを答える問題の正答率は、68.3%であり、市の平均正答率よりも17.7ポイント高い。</li></ul>                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"><li>・正三角形や二等辺三角形などの図形の具体物を使いながら、視覚的、体感的にとらえさせ図形の特性を確認し、それらの図形の定義と性質について整理してまとめ図形についての知識や理解を着実に身に付けられるようにする。</li></ul>                                                                             |
| 測定     | <ul style="list-style-type: none"><li>・領域全体の正答率は、34.5%であり、市の平均正答率よりも1.4ポイント低い。</li><li>○重さが同じになる組み合わせとして、正しいものを選ぶ問題の正答率は、36.6%であり、市の平均正答率よりも10.3ポイント高い。</li><li>●前後の時間や時間の経過から、途中の時間を求める問題の正答率は、39.0%であり、低い正答率となっている。</li><li>●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題の正答率は、31.7%であり、低い正答率となっている。</li></ul>                                          | <ul style="list-style-type: none"><li>・アナログ時計など視覚的教材を用いながら時間の計算技能が身に付くよう指導する。また、生活場面でも時間を意識する場面を設定する。</li><li>・はかりの目盛りを読み取る際に、正しく単位を換算することに留意させたい。</li></ul>                                                                        |
| データの活用 | <ul style="list-style-type: none"><li>・領域全体の正答率は、33.3%であり、市平均正答率よりも8.9ポイント低い。</li><li>○目盛りの付け方が異なる2つのグラフで、棒の長さで数を比べられないわけを説明する問題の正答率は、51.2%であり、市の平均正答率よりも27.7ポイント高い。</li><li>○棒グラフを読み取り、二番目に多い落とし物の数が一番増えた種類を答える問題の正答率は、68.3%であり市の平均正答率よりも20.5ポイント高い。</li><li>●示されたテーマについて適切なグラフを選び、選んだわけを選ぶ問題の正答率は22.0%であり、低い正答率となっている。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・グラフを見て、どのようなことがわかるのか(縦軸や横軸、1目盛りの数量、変化のしかた)などを読み取るポイントや手順に沿って丁寧に確認しながら、データ処理の技能を身に付けさせていきたい。また、アンケート集計などの身近なデータをグラフで表したり、グラフの特徴を言葉で説明したりすることで、グラフの特徴と利点を理解し、身の周りの事象について活用できるようにしたい。</li></ul> |

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 80.5 | 72.1 | 71.0 |
|     | 「粒子」を柱とする領域    | 84.2 | 65.2 | 63.9 |
|     | 「生命」を柱とする領域    | 87.0 | 82.8 | 82.4 |
|     | 「地球」を柱とする領域    | 63.4 | 57.7 | 56.2 |
| 観点  | 知識・技能          | 78.7 | 73.8 | 72.8 |
|     | 思考・判断・表現       | 83.5 | 73.7 | 72.8 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                              | 今後の指導の改善                                                                                                                  |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | ・平均正答率は80.5%であり、市の平均より8.4ポイント高い。さらに、すべての設問において、市の平均の正答率を上回っている。<br>○手でにぎるとトライアングルの音が止まる理由を考える設問の正答率が97.6%で、市の平均を13.4ポイントと大きく上回った。十分な体験活動を通して実感を伴った理解が得られた成果だと考えられる。 | ・音の伝わり方では、対象が変わってもトライアングルと同じ現象が起こることについて、今後も体験的な活動を通して理解が深まるように指導をしていく。                                                   |
| 「粒子」を柱とする領域    | ・平均正答率は84.2%であり、市の平均より19ポイント高い。さらに、すべての設問において、市の平均の正答率を上回っている。<br>○5-2体積が同じでも種類によって重さが違うことを答える設問の正答率が73.2%で、市の平均を30.9ポイント上回った。十分な体験活動を通して実感を伴った理解が得られた成果だと考えられる。    | ・今後も実感を伴う実験や体験を重ねていきたい。                                                                                                   |
| 「生命」を柱とする領域    | ・平均正答率は87.0%であり、市の平均より4.2ポイント高い。<br>○植物の体のつくりの正答率は100%で、市の平均を5.5ポイント上回った。<br>●昆虫のすみかについて考える問題では、市の平均正答率が3.3ポイント下回っている。知識として理解できているが、題意に沿って答えることが難しかったと考えられる。        | ・豊かな自然環境で生活していることで自然の様子を体験的に捉えることができていると考えられ、今後も継続した指導を行っていきたい。<br>・問題を理解し、題意に沿った回答ができるようにキーワードを提示するなど正しい回答を書く練習を行っていきたい。 |
| 「地球」を柱とする領域    | ・平均正答率は63.4%であり、市の平均より5.7ポイント高い。また、すべての設問において、市の平均の正答率を上回っている。十分な体験活動を通して実感を伴った理解が図られた成果だと思われる。<br>○方位磁針の正しい使い方の正答率は56.1%で、8.8ポイント上回った。                             | ・児童が個々に確認できたこともあり、知識の定着率が高かったと思われる。今後も実感を伴う実験や体験を重ねて行きたい。                                                                 |

## 宇都宮市立岡本小学校 第4学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている」の肯定的回答は85%で、市の平均を4.5ポイント上回っている。また「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定的回答は85%で市の平均を1.6ポイント上回っている。学習内容に応じてペアやグループ・全体発表などを適切に取り入れ、考えをアウトプットする機会を授業で設けた結果と思われる。今後はさらに、自分の考えを改めて認知したり、友達の発表を聞いて考えを広げたりすることができるように工夫をしていく。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」に対する肯定的回答は87.5%で市より2.5ポイント高い。また、「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」に対する肯定的回答は75%で市より3.3ポイント高い。学習意欲の高さ、物事への興味関心が高いことを生かした授業展開をしたり、図書資料や1人1台端末を適切に活用したりする工夫をしていく。

●家庭での学習に関わるものとして、「家で学校の宿題をしている」に対する肯定的回答は90%で市よりも4.6ポイント低い。「家で、学校の授業の復習をしている」に対する肯定的回答は62.5%で市より1.2ポイント低い。今後は、理解度の低い単元の補充や学校で配付している「自主学習のヒント集」を活用して、さらなる家庭学習の習慣化に努める。

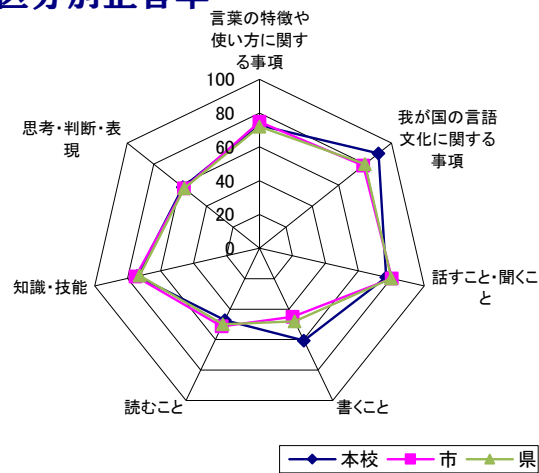
●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」に対する肯定的回答は62.5%で市より4.8ポイント低い。また、「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」に対する肯定的回答は90%で市より2.6ポイント低い。お互いの良さを認め合う機会を設けたり、意図的に活躍の場を設定したりすることで、学級への帰属意識や自己肯定感を高められるよう工夫していく。



宇都宮市立岡本小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分               | 本年度  |      |      |
|-----|------------------|------|------|------|
|     |                  | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 72.8 | 74.8 | 72.0 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項   | 90.0 | 78.6 | 79.9 |
|     | 話すこと・聞くこと        | 76.9 | 80.4 | 80.0 |
|     | 書くこと             | 60.6 | 45.1 | 48.0 |
|     | 読むこと             | 47.2 | 51.3 | 50.0 |
| 観点  | 知識・技能            | 74.3 | 75.2 | 72.8 |
|     | 思考・判断・表現         | 58.0 | 57.0 | 57.0 |



★指導の工夫と改善

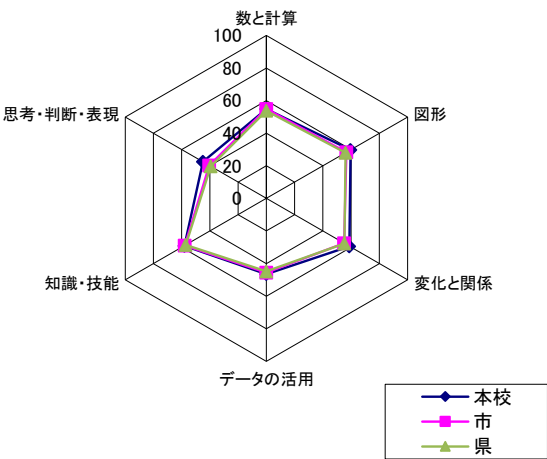
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分            | 本年度の状況                                                                                                                                                 | 今後の指導の重点                                                                                                                    |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | ・領域全体の平均正答率は、市平均より2ポイント低い。<br>●漢字を書く問題が、3問中1問市平均より11ポイント以上低く、定着が不十分である。<br>●修飾語への理解が十分ではない。                                                            | ・漢字に関しては、既習の漢字の復習を行う中で、単体で練習をするのではなく、特別な読み方にも触れていく。また、文章を書く活動等で、既習の漢字や熟語を使っているか丁寧に添削を行い、定着を図る。                              |
| 我が国の言語文化に関する事項   | ・領域全体の平均正答率は、市平均より11.4ポイント高い。<br>○前後の文脈をよく読み適する表現を選択する問題では、正答率は90%であった。また無回答率は0%で、楽しみながらことわざに親しんでいることが伺える。                                             | ・読み聞かせやスピーチ等の活動を積極的に取り入れるなど、さらに様々な言い回しやことわざ・熟語等に楽しみながら触れる機会を増やしていく。                                                         |
| 話すこと・聞くこと        | ・領域全体の平均正答率は、市平均よりも3.5ポイント低い。<br>●話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ問題の平均正答率が、市の平均正答率より7.7ポイント低くなっており、話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるかを考えながら聞く意識が低いことが分かる。             | ・教育活動全般において、友達の意見との共通点や相違点に着目して聞き、話し手の意図を捉えながら話し合いをする機会を多く取り入れる。                                                            |
| 書くこと             | ・領域全体の平均正答率は、市平均より15.5ポイント高い。<br>●無回答率が20%で、問題に答えきれていない様子が伺える。特にあいさつについてのアンケート結果から読み取ったことを1つ目の段落に書くことが、47.5%で、内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことが苦手な児童が多いことが分かる。 | ・内容を整理したり段落構成が決まっていたりと複数の条件を意識して文章を書くことに慣れていない様子が見られる。国語の授業等で要約したり、条件を付けて作文を書いたりする練習を取り入れることで、自分の考えをもち、分かりやすく表現ができるようにしていく。 |
| 読むこと             | ・領域全体の平均正答率は、市平均よりも4.1ポイント低い。<br>●物語文の登場人物の行動の理由を説明した文として適するものを選ぶ問題の正答率が、市の平均正答率よりも17.8ポイント低くなっている。                                                    | ・児童にめあてを明確に提示し、叙述に焦点を当てて読んでいくことを繰り返し行い、全体を見通して内容を正確に捉えることができる力を高めていく。また、問題文や話の叙述を行き来しながら、読む手法を授業に取り入れるなど、児童に身近なものにしていく。     |

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算     | 54.8 | 54.9 | 53.7 |
|     | 図形       | 59.6 | 56.6 | 56.1 |
|     | 変化と関係    | 58.8 | 55.1 | 55.2 |
|     | データの活用   | 46.5 | 45.5 | 44.8 |
| 観点  | 知識・技能    | 58.1 | 57.8 | 57.2 |
|     | 思考・判断・表現 | 45.0 | 40.6 | 39.5 |



★指導の工夫と改善

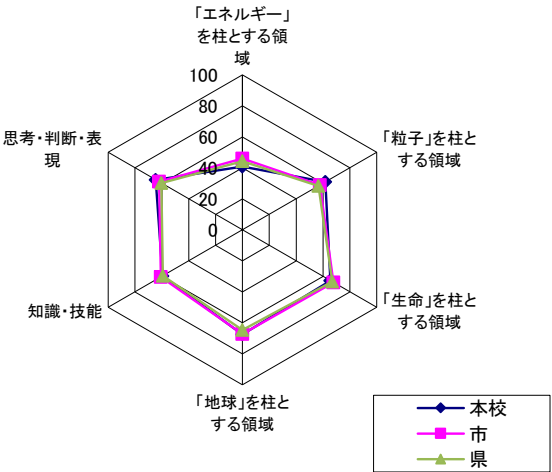
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | <ul style="list-style-type: none"><li>・領域全体の正答率は、54.8%であり、市の平均正答率より0.1ポイント低い。</li><li>○<math>3\text{けた} \div 2\text{けた} = 2\text{けた}</math>（余りあり）の計算をする問題の正答率は、72.5%であり、市の平均正答率よりも10ポイント高い。</li><li>●帯分数－真分数＝真分数の同分母分数の計算をする問題の正答率は、60.0%であり、市の平均正答率よりも15.6ポイント低い。</li><li>●四則混合の式の計算の順序として正しいものを選ぶ問題の正答率は、35.0%であり、市の平均正答率よりも2.9ポイント低い。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・分数や小数の計算など基礎的な知識や計算技能が不足している。既習の概念や計算方法について、新しい単元を始める前に復習をする時間を設ける。また、四則混合の式の計算を多く経験させていく。</li></ul>                                                                                                                                        |
| 図形     | <ul style="list-style-type: none"><li>・領域全体の正答率は、59.6%であり、市の平均正答率よりも3ポイント低い。</li><li>○三角定規を利用して、正しい角度を選ぶ問題と180度より大きい角度の大きさを求める問題の正答率は、それぞれ市の平均正答率よりも10ポイント以上高い。</li><li>●直方体の面に垂直な辺をすべて答える問題の正答率は、47.5%であり、市の平均正答率よりも13.5ポイント低い。</li></ul>                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"><li>・分度器や三角定規を用いて作図する技能が身に付いている。</li><li>・実物を用いて視覚的支援を行い、垂直や平行などの算数用語の意味を十分に理解できるようにする。</li></ul>                                                                                                                                                |
| 変化と関係  | <ul style="list-style-type: none"><li>・領域全体の正答率は、51.6%であり、市の平均正答率よりも4.5ポイント低い。</li><li>●表を横に見て使用した棒の本数がいくつ増えているかを答える問題の正答率は、77.5%であり、市の平均正答率よりも1.9ポイント低く、表の見方を理解していない児童が12.5%であった。</li><li>●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、47.5%であり、式の意味を理解していない児童が42.5%であった。</li></ul>                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"><li>・伴って変わる2つの数量の関係を読み取ることが難しいことが伺える。2つの数量がどのように変わっているのか表で確認し、規則性を言葉で表現できるように指導していく。</li><li>・伴って変わる2つの数量の関係を文字を使った式で表すことができるよう、視覚教材やICTを用いて視覚的支援を行い、見通しを持って学習課題に取り組めるようにする。</li><li>・正答率から理解度が二極化していることが伺える。習熟度別学習を取り入れ個に応じた指導を行っていく。</li></ul> |
| データの活用 | <ul style="list-style-type: none"><li>・領域全体の正答率は、46.5%であり、市の平均正答率よりも1ポイント低い。</li><li>○グラフから読み取った数を示し、変化の様子を説明する問題の正答率は15.0%であり、市の平均正答率より5.6ポイント高い。</li><li>●表の数が何の数を表している問題の正答率は62.5%であり、市の平均正答率よりも4.5ポイント低い。</li></ul>                                                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"><li>・データの活用では、授業の中で、グラフの縦軸や横軸の表すもの、また1目盛りの大きさを注意して見ながら、2つの数量の変化について分かることを細かく整理し、データから意味のある情報を読み取れるようにする。</li><li>・他教科の学習においても様々な表やグラフを読み取る活動を多く設定することでデータの活用の力を伸ばしていく。</li></ul>                                                                 |

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 40.8 | 46.0 | 44.3 |
|     | 「粒子」を柱とする領域    | 61.8 | 57.7 | 56.6 |
|     | 「生命」を柱とする領域    | 65.5 | 67.8 | 66.9 |
|     | 「地球」を柱とする領域    | 67.5 | 67.2 | 64.6 |
| 観点  | 知識・技能          | 59.6 | 60.8 | 59.2 |
|     | 思考・判断・表現       | 64.6 | 62.1 | 60.4 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 今後の指導の改善                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | <p>・平均正答率は40.8%であり、市の平均より5.2ポイント低い。</p> <p>○●検流計の針の向きと傾きが電流の向きと大きさを示していることについて、正答率は市の平均を1.2%上回っていたが32.5%とかなり低い。数値を読むことができて検流計が何を指しているのか理解できていないことが考えられる。</p> <p>●並列つなぎの回路に流れる電気が乾電池1つと同じであることについて、正答率は市の平均を8.9ポイント下回った。また、正答率自体も37.5%とかなり低い。2種類の回路の特性に関する理解が不十分であると思われる。</p>                                                      | <p>・検流計の針の動きが示す意味について、実物を使いながら記録する活動を取り入れる。針が指し示す目盛りではなく、針が振れる向きと針の傾きが示す意味について答える類題を多く解かせることで知識の定着を図る。</p> <p>・検流計を活用し、乾電池1個と複数個の並列つなぎとの電流の大きさが同じであることを確認できるようにするなど、道具を使って体験的な活動を行い、習得できるようにする。</p>                            |
| 「粒子」を柱とする領域    | <p>・平均正答率は61.8%であり、市の平均より4.1ポイント高い。</p> <p>○エアコンの暖房で部屋全体を温める時の風向について考える問題では、正答率が90%と市の平均を約16ポイント上回った。教室でも家庭でも使用していることもあり、体験から実感として答えている傾向が見られた。</p> <p>●湯気と水蒸気の違いについて具体的に説明する問題では、正答率が27.5%で市の平均よりも4.9ポイント低い。</p> <p>●金属を温めると蓋が開く理由についての正答率は、30%で、市の平均より5.4ポイント低い。金属の存在が身近にありすぎることによって観察の対象になりにくいため、それに対する関心も低くなっていることが考えられる。</p> | <p>・水の三態変化について、気体と液体との違いを正確に捉えるために、物質の変化とその原因を実験を通して指導することで定着を図る。</p> <p>・金属の体積変化については、具体例をあげながら理由を明確にし、変化の様子について生活と結び付けて指導していく必要がある。原因と結果をつなぐ事象や現象について自分の言葉で説明できるように継続的に指導していく。</p>                                           |
| 「生命」を柱とする領域    | <p>・平均正答率は65.5%であり、市の平均より2.3ポイント低い。</p> <p>○春と冬の生き物の様子の違いについて答える問題では、正答率が市の平均を5.9%上回っている。多くの木々に囲まれた環境で生活していることで自然の変化の様子を視覚的に捉えることができていたと考えられる。</p> <p>●骨と関節について特徴と役割を答える問題では市の正答率を19.9ポイント下回った。実際に自分の目で見て確かめることができないという問題があると考えられる。</p>                                                                                           | <p>・教科にこだわらず、行事等様々な活動を取り入れ、自然環境をより身近に感じられるようにする。</p> <p>・体内の仕組みは見えないことから、ICTを用いて動画などの教材を活用したり、疑似教材を使用したりすることで、視覚や触覚から実感できる時間を確保して、知識の定着につなげるようにする。</p>                                                                         |
| 「地球」を柱とする領域    | <p>・平均正答率は67.5%であり、市の平均より0.3ポイント高い。</p> <p>○雨の日の気温変化について、一日の気温変化の幅が狭いことを選ぶ問題では、正答率が67.5%で市の平均を2.9ポイント上回っている。身近な事象として体験的に理解できていると考えられる。</p> <p>○星の動きと星座の並び方についての正答率が80%と市の平均を14.4ポイント上回っている。季節と星の動きを関連付けて正しく理解できていることが伺える。</p> <p>●水蒸気が冷やされることで水になることを答える正答率は37.5%で、市の平均を16.2ポイント下回った。知識として理解できているが、題意に沿って答えることが難しかったと考えられる。</p>   | <p>・天気の違いによる気温変化の様子は、体感的に覚えている児童は約7割いるものの、3割の児童は知識の定着が図れていないため、日々の天候の変化と合わせて話題に取り上げ、定着を図る。</p> <p>・水の三態変化について再度、教科書や動画等を活用して復習し、個体、液体、気体のそれぞれの様子を確認し、知識の定着を図る。理解するための基礎的な言葉の使い方を体験的に学ぶ機会を設け、既習事項を日常生活の中で繰り返し意識させ、確実な定着を図る。</p> |



宇都宮市立岡本小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習に関わるものとして「家で、学校の授業の復習をしている」に対する肯定的回答は74.3%で市より12.1ポイント高い。また、「学校の宿題は、やりたくない内容だ」に対する肯定的回答は69.3%で市より10.9ポイント、「学校の宿題は、自分のためになっている」に対する肯定的回答は97.4%で市より1.9ポイント高い。今後も家庭学習に熱心に取り組んでもらえるように学習内容を工夫していく。

○「毎日、朝食を食べている」に対する肯定的回答は97.4%で市より3.6ポイント高い。また、「早ね、早起きを心がけている」に対する肯定的回答は89.7%で市より11.8ポイント高い。養護教諭や栄養士と連携し、保健指導を行ってきたことや毎月の便りで啓発を行ってきたことが規則正しい生活につながったと考えられる。今後も継続して保健の授業を通して、自分の健康についてさらに考えられるよう、指導していく。

●家庭での学習に関わるものとして「家で、学校の授業の予習をしている」に対する肯定的回答は46.1%で市より6.9ポイント低い。また、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」に対する肯定的回答は56.4%で市より5.4ポイント低い。自分で課題を見つけ、自主学習に生かせるよう予習や復習の仕方を指導したり、補充問題に取り組ませたりし、学習内容の定着を図る。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答は43.6%で、市の平均を5.5ポイント下回っている。授業だけではなく、クラブや児童会活動等でも自分の意見を発表する機会を意図的に設定することで、発表することへの自信を高めていく。

宇都宮市立岡本小学校（第4・5学年共通）  
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組             | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                                         | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 児童が言葉の力を伸ばす工夫      | 授業で各教科における重要語句を繰り返し意識させ、自分の考えを言語化する場の設定をする。<br>また、話合いの話し型・書き方の型を提示し、それをもとに友達と論理的に話合いを進め、課題解決に見通しをもって取り組めるようにする。                                                                   | 「国語は授業で自分の考えを書くときに、考えの理由が分かるように気を付けて書いている」の肯定回答率は、4年生は2.7ポイント、5年生は0.7ポイント、県の平均よりも低い。しかし、「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」の肯定回答率は、4年生は5.8ポイント、5年生は9.5ポイントと県の平均よりも高かった。「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことが難しい」の肯定回答率は、4年生は県の平均より3ポイント多くの児童が難しいと感じ、5年生は51.3%の児童が難しくはないと回答している。昨年度から型を提示した上で、話合いやまとめの活動に継続的に取り組んできたことで、自信をもって自分の言葉で表現することが少しずつできるようになってきている。                       |
| 児童が自信をもって伝え合うための工夫 | 各教科で宇都宮モデルである「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業展開を行い、課題は何か、何をどのように学んだのかを気付けるようにする。また、本時の授業におけるまとめや振り返りをしっかりと行い、定着を図る。<br>自分の考えを適切に言語化できるよう、学習形態を工夫したり、ICT機器を効果的に活用したりし、学習に取り組むことができるようにする。 | 「授業の中で、目標（めあて・ねらい）が示されている」の肯定回答率は、4年生は5.2ポイント、5年生は2.1ポイント、県の平均を上回っている。また、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定回答率は、4年生は4.5ポイント、5年生は12.3ポイント、県の平均を上回っていることから、授業中、目標をもって授業に取り組んでいることが伺える。また、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定回答率では、4年生が3.3ポイント、5年生が11.5ポイント上回り、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定回答率は、4年生は2.8ポイント、5年生は18.9ポイント、県の平均を上回っており、学ぶことに興味関心をもち、粘り強く取り組み、次の学習活動につなげることができている。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                                                           | 重点的な取組                                                                                                      | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教科に関する調査から、各教科に共通する課題として、長文の問題文の題意を捉えきれず、文章で理由を説明する問題や条件に沿った内容に説明文を要約する問題の正答率が低い傾向がある。 | 各学年、各教科で教科の重要語句を理解させ、既習の語句や内容を繰り返し取り上げ、自分で考えを書いたり説明したりする言語活動を、教科横断的に取り入れる。<br>教師が児童の発言をコーディネートし話合い活動を充実させる。 | どの教科においても、国語辞典や漢字辞典、ICT機器を活用し、語彙の正確な意味を理解しながら文章を読む活動を意図的に設け、語彙力を増やす。また、教科の重要語句を使い文字数や段落などの条件を付け加えた文章を書く活動を取り入れ、的確に表現する方法を習得させる等、言語活動の質を高める。また、授業内容に関する「パワーアップシート」や「復習教材」「過去問題」を適宜取り入れ、様々な問題を解く機会を意識して設ける。<br>話合い活動で、児童の思考過程を教師が質問などで考え方や根拠を導き出し、論理的な話し合いを成立させ、児童同士でお互いの意見の意図が理解できる言語活動を設定する。<br>振り返り活動では、振り返りの視点を明確にし、力がどのくらい身に付いたか授業者と学習者ともに確認しフィードバックを返すことで質を高めていく。 |